

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	はなまるホーム馬淵
(ユニット名)	A B 共通
所在地 (県・市町村名)	静岡県静岡市駿河区馬淵4-10-39
記入者名 (管理者)	藤本佳延
記入日	平成 20 年 8 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>近隣の利用者の入居を最優先し、住み慣れた地域での生活を促し、家人も来所しやすい環境としている。地域密着型のホームでありたいと考えている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念をホーム玄関に掲示し、職員全員で共有し、働くようにしている。【利用者様のあるがままを受け入れ、見守り、ケアする。】</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム入所時に、ホームの理念を説明し、納得して頂いている。地域においても、営業活動も含め、アピールしていきたいと思う。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>外出時、玄関先では必ず挨拶している。職員が明るく挨拶することで、利用者様も挨拶するようになり、良い交流ができる。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会費を払い、町内の行事には参加させていただいている。地域の一員として、周囲のゴミ拾い、雑草のかたづけ等を行い、迷惑の掛からない様にしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の採用も近隣の方を優先し、地域性のある事業所となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を定期的に行なうことで、様々な反省も含め、今後の改善に役立っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在メンバーとなつていただく方と交渉中で、実施していない。		自治会長が隣の町会と同じ方で、交流も少なく、近隣の方にも運営会議に対する理解に乏しいこともあるが、家族や民生委員、包括の方にも参加していただき、なんとか実行していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域グループホームの会合や、地域事業所の研修会に可能な限り参加し、常に新しい知識を取り入れ、サービスの向上に取り組んでいる。		生活保護受給者となつても、受け入れており、又、市福祉課とも協議し、同じ環境で生活できるように支援している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度を利用の入居者が多いことから、必然的に学ぶことも多い。		今後も必要な方には、制度を活用して頂き、制度の普及の一助となればと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士お互いに注意し、管理者側からも常に注意を払い、見過ごされる事の無いように努めている。又、職員全員が言語道断の事だと承知している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関しては、誤解の無いように、詳細な説明を行っている。又、質問にも丁寧にお答えしている。	実際に入居させる事への不安や、後ろめたい気持ちが、家人に多少なりともあり、躊躇されることもある。その場合は、体験入居も可能で、無理のない、家人の納得した入居となるようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、介護相談員を受け入れ、利用者の意見、不満、苦情を事業所側へ流す事が出来る状況を作り、訴えに対し、対応すべく常に耳を傾ける努力をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書の送付時、はなまる通信や写真を同封し、ホームでの生活の様子を伝えている。特変時には、電話にて報告している。	家人が来所の度、身体的状況や精神的な面のお話し、生活ぶりについて伝え、家人からの御意見も伺っている。遠方におられる家人には、メールや手紙で、近況報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や近隣からの苦情には直ぐ対応し、改善している。玄関先に、苦情申立先を掲示している。	家人とは上記のように、常にコンタクトが取れる状況を作り上げており、色々な要望に応えられるようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員との交流の場を自ら作り、話しやすい雰囲気を作り上げている。又、職員の提案に迅速に対応する努力をこころがけている。	職員の定着率が高く、安定していることから、管理者とのコミュニケーションがうまく出来ていることの現われと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の、状況の変化で残業の時も、迅速な対応をしている。身体的、認知的に重度のAユニットには、職員を多く配置するなどの対応で、利用者のレベルにあったものとしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの役割を認識し、馴染みの管理者、職員で対応する事を心掛けている。離職時、利用者への影響を考慮し、事前に話す等、臨機応変な対応を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への積極的な参加を促し、勤務調整等の行なっている。又、経験者、有資格者との交流から、勤務中にも、各自が学び取れる環境がある。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会時、営業活動での話し合い等を通し、ネットワーク作りは積極的に行なっている。同業者との事例勉強会にも出来る限り参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい環境作りのため、有給休暇を完全消化出来るようシフト調整をおこなっている。又、管理者、事務方にもしっかり物が言いやすい雰囲気が作り出せている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	経験、実績に応じ様々な研修会参加を促している。介護福祉士やケアマネ資格への挑戦者も毎年出ている。ボーナスは、実績、勤務状況を考慮したものとなっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は傾聴してお話を伺っている。本人にも会い、訴えも充分聞きながら、問題解決の為の方法を模索している。在宅介護の可能性も視野に置いたアドバイスを行なっている。	特に、入居当初には、帰宅要求が強く、又、多く見られることから、本人を理解する上でも、よく話しお聞き、不安の解消に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とは、よく話し合い、ホームとして対応可能な範囲を示し、受診の件、症状軽減の仕方、将来の展望、終末期の対応等詳しく話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、ホーム入所が適切なのか、他のサービス利用が良いのかに極め、次の支援に繋げるまで、責任を持って支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況により体験入居の形を取り、本人や家族が十分考える時間を確保し、不安なく入所できる支援を行っている。		体験的にホーム生活するシステムもあり、本人及び家族が、無理なく、ホーム生活を受け入れられるようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームとしての魅力を最大限に活かし、共に生活する場としての関係作りや、環境整備を行なっている。職員も利用者から学ぶことが多く、良い関係が築かれていると思う。		利用者様の目線で、物事を見る、考える努力をしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に出来る限り来所して頂く為、行事の伝達や現状報告の連絡は頻回である。又、遠方の家族にも写真を定期的に郵送している。		家人との話し合いの中で、家人の出来る事はして頂くようにしており、協力して頂く事で、ホームにすべてお任せ、とならないようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者の中に職員が入り、ホームでの過ごされかたや、最近の出来事等楽しかった事や、関心のあった事を語り合う事が多い。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた人、友達が訪ねてくる時は、職員が案内し交流して頂いている。職員とも親しくなり、良い関係が築かれている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者のADLや性格を把握し、生活し易いユニット編成としている。様々な状態変化応じ、居室移動や対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設、病院へ移動された場合もその後の経過や状態の把握に努め、職員もお見舞いに個人的に行くことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時だけでなく、常に本人の思いや、意向に耳を傾け、職員同士で伝達し合い、最善の生活環境となるように努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族より詳しく聞き、雑談からも色々な情報を収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員同士、情報の共有に力を入れ、職員の観察力を磨くことにより、利用者を総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の経験、年齢、性別、資格等、色々な角度からの意見を聞き、本人、家族の意向を汲みながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しは行なっているが、毎月の定例カンファレンスにおいて、見直しや、現在での適切な対応を検討し、実行している。その結論は、まとめとして文書化している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週間介護記録表を作成し、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のADLや性格を把握し、生活し易いユニット編成としている。様々な状態変化に応じ、居室移動や対応をしている。退所の場合の次の所が決まるまで支援し様々な情報を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察及び消防については、常に協力し火災防止や事故防止に努めている。又、手品、演奏、歌等のボランティアも受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する支援は、現在は特に行なっていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、入居の利用者中、4名様が後見人制度を活用し、弁護士、司法書士、身内人等の方により支援して頂いている。		包括支援センターからの相談も多くあり、ホームとしてアドバイスする事も多く、ホームから利用者の紹介をお願いすることもある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医に受診する事を基本としているが、特にこだわらない場合は、ホームと協力的な関係の医院へ受診している。内科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、歯科、皮膚科、神経内科、耳鼻咽喉科等。		認知症の診断、及び、進行状況を客観的に把握することも必要と考え、CTスキャナーの有る病院にも受診している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に認知症の専門医がいるので、ドクターとは良好な関係を築き気軽に相談できている。STスキャナー診断ができる為、進行状況の把握ができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的(8H/W)に正看護師が来訪し利用者の体調管理、医師との連絡、医療処置を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、定期的に病院に行き、所持品管理や洗濯物の回収をおこなっている。SW、NSとも連携し、情報交換に努めている。電話での連絡も密に行い、退院許可が下りれば速やかに、対応出来る体制を作っている。		ホームの居室は、復帰不可能が明らかな場合以外は、キープしており、本人が安心して入院でき、家人も不安にならないようにしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応については、家人とも随時話し合っているが、医師より話しがある場合、必ず家人同伴で話し合うようにしている。又、職員も情報を共有できるよう、申し送りしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化について様々な状況を想定し、夜間、日中の対応を詳細に話し合い、ホームとして可能な対応を決めていくようにしている。更に重度化した時は、医師と相談し又、家人の意向も聞きながら相談の中で決めていく。		本人、家人の希望があれば、主治医の指示による訪問看護サービスで、点滴などによる静かなる終末を迎えられるような体制作りを、実行中である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先へ、書面にて情報提供すると共に、生活面や性格、当所での色々なエピソード等細かく伝え、可能な限り変化の少ない状態に移る事が出来るように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉賭けや対応については、職員同士細心の注意を払い、実行している。プライバシーの確保、個人情報の保護の付いても、細心の注意の下で行なわれている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	可能な限り希望を受け入れているが、職員の数や状況により不可能なことも多い。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしい生活が出来るよう、可能な限り希望を受け入れている。表情、その日の体調を考慮し、本人が訴え易い状況を作っている。	メリハリのある生活の中で、マイペースな暮らしとなるように努力している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の趣味やおしゃれ感覚を大切に、近くの美容院へも出掛ける。訪問ビューティも受けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL低下に伴い、参加が難しい場面も増えてきたが、可能な範囲で参加して頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコは医師より止められている方も含め、現在希望する方はいないが、希望があれば対応可能である。飲み物は好きなものを出しているが、アルコールは出していない。以前は出すことがあった。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	羞恥心に対する配慮と同時に、出来る限り トイレでの排泄を心掛けている。排泄パターンを把握し安全なトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回のお風呂だが、失禁などの時は随時の入浴として。風呂内で歌を口ずさんだり、楽しいお風呂になっている。		長風呂は、医師の指示で禁止でなければ、出来るだけ本人の希望に沿ったものとしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ホームでは、基本的にプログラムを決めておらず、特に利用者に対し強制はしない方針である。各人がマイペースな生活が出来るように、配慮している。昼寝する人、しない人、それぞれでよいとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内にて役割を持って頂く工夫や、外出による気晴らしで、可能な限り、笑顔の多い生活となるように努力している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の問題を考慮し、事務所金庫で預かっているが、使用時は本人の希望に合わせて、持って頂き、自由に使っている。		お金を持たないと不安になる方には、家人との話し合いの上、所持してもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせ、外出する事がある。常にマンツーマンの外出となるが、良い気晴らしとなり、職員とのつながりも生まれ、良い影響となっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者一人ひとりの希望に可能な限り応じ、車でドライブする事もある。普段と違う支援も必要と考えている。		家人との外出も時々あり、事前の連絡を頂ければ、外出の服装に着替える等の準備もしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は必要に応じ、代筆等をしている。		携帯電話を持っている方もおられ、操作は職員が行なう等の支援もしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は、常識的な時間帯であればいつでもOKである。挨拶や雰囲気大切に、家人が気楽に来れるようにしている。		来所時のは、お茶やお菓子をお出しするなどの事は、常に行なっており、本人と、居室やソファで過ごせるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては、管理者側からも、又、職員間でも一切拘束のないケアを大前提にしており、今後もその方針は変わらない。又、禁止事項の理解もできている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけることの弊害は理解しており、職員の数に余裕がある時は開放しているが、常時開放しているわけではない。		居室のドアは、施錠する事は無い。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の人数、配置には常に気を配り、所在は勿論様子観察は最善の努力を行っている。プライバシーの配慮についても様々な取り組みをおこなっている。		居室のドアに工夫し、特に夜間、プライバシーに配慮しながらも安全が確保出来るようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	収納場所を考え、置いているが、可能な限り生活感のある状態を保ち、状態や状況にあわせた対応を考えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や誤薬等には職員が団結して対応を考え、最善の注意を払っている。事故の防止の取り組みは会議でも常に話し合い、状態に応じた対応を考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は、救命救急の講習等に参加し急変や事故発生時に備えている。事務所に初期対応マニュアルを掲示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を利用者と行なっている。2階にADLレベルの良い利用者を入所して頂き、避難し易いようしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	申し送り、カルテの記載により、利用者の状態変化等を共有し、対応している。馴染みの職員との関わりで、異変には早く気づき対応出来ている。		抑制をしない反面、リスクの有る事を、家人に充分書面でも説明しており、承知して頂いているが、事故のないように努力している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、カルテ記載等で利用者の状態変化を把握し共有している。馴染みの職員の関わりにより、早期発見に繋がっている。		毎日AM:10:00にバイタルチェックし、異常の有無の確認に役立っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は徹底して行い、服薬の際は、職員同士の声掛け、確認を必ず行う。症状の変化に応じ調節の必要なものについては、皆で相談し、医師とも相談、指示を得ている。		服薬が分かりやすいように、効能表ノートを作成している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ、消化の良いものを出す工夫と共に、水分補給に力を入れている。便秘薬によるコントロールも行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず行い、義歯の洗浄も毎晩行なう。自力で困難な利用者には、職員が行い、常に口腔内の清潔保持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事の提供を行い、白米は100グラムと決め、体重増加を防いでいる。水分は、積極的に取ってもらう努力をしている。	水分摂取量の少ない方には、チェック表にて記録し、対応を考えている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する研究会への参加から、職員の学ぶ機会お持ち、手洗い、うがい等の実践と学習の両面からの予防を行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保管は、最低限に留め、常に新鮮な食材による調理を心掛けている。又、台所の衛生に努め、1日1回、清掃と漂白に努めている。	ガスコンロ台、調理場の床についても、毎日清掃している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープは勿論、段差のないバリアフリーの建物で、安心して生活できる環境を整えている。施設と違う親しみやすい環境作りを実行している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎日の清掃を行い、不快のないように保ち、利用者にとって居心地の良い環境作りを行なっている。又、季節感を出す為、花や写真等を飾る工夫も行なっている。トイレは、汚れのないように、随時行なっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになる為の居室の確保やリビングにおいては、座席の確保を行い、一人ひとりが居場所を認識し安心して生活できる様に努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅にて使用していた物を持ち込んで頂き、掛け布団も入居時に持ち込む事としている。家族や本人の工夫により、各人が好きな部屋作りをしている。		仏壇を持ってきている方もいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い時は、可能な限り自然の空気を取り入れ、常に空気の循環を行なう努力を行なうと同時に温度変化を少なくする為に、空調設備を整えている。		冬場には、加湿器にて乾燥し過ぎないようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、建物内のバリアフリーはもちろん、家具等の配置にも気を配り、自分の力で出来る事は可能な限り、自立を促し、そこから達成感を得てもらおう工夫を心がけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗に対し職員は予防の対応を常に話し合い、自立した生活の促しを行い、自立の為に工夫も一人ひとりの対しておこない、援助するように努めている。		居室前には大きい表札を掲げ、トイレも分かりやすいように、大きく表示している。利用者からは、何度も同じ事を聞かれるが、その度、誘導している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園芸を行い、外の居心地の良さを作り出し、職員と利用者が共に水やりを行う等、活動し、楽しみながら外気浴を行なうために、外周やベランダをいかしている。		プランタンで育てている野菜は、今夏、茄子約40本、にがうり約40本、つる紫多量に収穫でき、食事に出しました。来所される方からも、立派に育ったとの言葉掛けをいただきました。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	▽	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	▽	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	▽	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	▽	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	▽	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	▽	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	▽	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	▽	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	▽	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	▽	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	▽	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	▽	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ケアの質の向上も、利用者様の心身の安定にも、同じ職員が常に関わる事が、前提と考ます。
当ホームでは、職員の離職率が低く、利用者にも運営的にも、良い環境が作られていると自負しています。